

四季報 春号

第百十七号(No.117)

芹沢文学研究会・会報

令和3(2021)年4月29日(木)刊行

柿若葉 風爽やかに…… 文学の



春の歌

会報作る コロナ禍の中

松林庵主人

◎ 芹沢光治良没後28年(29回忌)「光治良忌」は中止

今年の3月23日は、芹沢光治良先生没後28年でしたが、新型コロナウイルスのために、沼津市の「光治良忌」は中止になったようです。各自で回想し祈念したと思います。コロナウイルスに負けないように頑張りましょう。

◎ 企画展「光治良と戦争展 図録」 沼津市教育委員会(沼津市芹沢光治良記念館)

沼津市芹沢光治良記念館から、平成27年6月〜平成28年5月に開催された企画展「光治良と戦争展」の展示資料を再編集した『光治良と戦争展 図録』をお送りいただきましたので紹介します。カラーの立派な冊子です。令和3年3月31日 沼津市教育委員会発行。鈴木吉維監修。A4判、40頁・巻末付録 時代年表二枚 展示した資料に追加し、新しい資料集になっています。6年後に改めて「戦争と平和」について考える契機となることを期待して刊行されたのです。内容紹介は省略。❖☆●

企画展「光治良と戦争展 図録」表紙

★ 『紙上3分間スピーチ』 芹沢文学愛読者の会 二〇二一年一月五日発行

芹沢文学愛読者の会の今年1月の「新年会」が、新型コロナウイルスのために中止になったので、参加した時に3分間スピーチする内容を各自に書いてもらい、それを小冊子(A5判)に集録したものです。『紙上新年会 3分間スピーチ』の題に、手書きやパソコンで書いたものが、61頁に収録されています。はじめに(山田武夫、目次、平石政行氏を始め53名の原稿、おわりに(安井正二)の構成です。鈴木春雄氏は、先生の色紙の縮小を収録。「はじめに」には「四十数年と続けている会の中止は惜しまれつつも、令和三年は一同に介

小冊子『紙上3分間スピーチ』表紙

◎ 芹沢光治良文学愛好会の継続を期待!

鈴木春雄氏が倒れ、豊田英文氏が引継いでいるのですが、6月に再開されます。芹沢文学の愛好会の火を消さないように、尽力を期待しています。

◎ 同封資料 / ①コラム 「定例金報告 上・中・下」 不破久温 沼津朝日 令和3年1月14日〜16日

縮小、「芹沢光治良とローマ教皇 鈴木直雄 同4月6日」提供 和田安弘氏 ②荒垣英雄対談

「芹沢光治良」 雑誌週刊朝日 昭和40年10月22日 朝日新聞社発行 32〜35頁「提供 中村燿子氏」

③ 文 連載 会員便り No.75 小串信正 第3回目の会員便りとして連載

不思議な投稿の当番

大阪市西成区松 新城 克己

私は今年93才で、逆読みで「サンキュウの年」と思っています。芹沢文学研究会から「会員便り」を依頼されました。これも又、天のはからいと思えました。

芹沢先生の連作で最後の作品に紹介されている若者が、平成2年正月に芹沢家に元旦の挨拶に行った時、突然先生の口から天の將軍が「大阪の新城に伝えよ」と、「新城が天理教の改革を思う気持ちを受け取って居るが、それは天の仕事で、新城は与えられた仕事に努力する様に。天理教の改革は時期が来たら一夜の間に変わるで。」と言われたとの事。「注/長文で不明なことも多いので、以下は要約します」

私は29才の年の暮れ、弟と2人で機械の据え付けをしている時、大喧嘩しました。借金で機械を購入した為、後戻りは不可でした。夜の星空を仰いで、神に誓った日が有りました。芹沢作品の神の三部作に書かれている伊藤青年を介して、親様のお許しを頂きたいと、半年後に前記の若者と会い、山に上がり、親様のお言葉で、この度6回目で結ばれました。承諾が得られて、翌月に契約、今日に至って居ります。

近年よく噂に出る予言の、この流れに対して、昨春秋、私のケイタイに1行ではあるが、天のメッセージが届いた。狭い行間一杯に宇宙の絵が有り、中央にGの文字、その隣りには2分の1の大きさで地球の絵が有り、続いて、「克己さん、新年のハイライトお目出とう」の文字が有り、お筆先3号73の下句にある「正月26日を待つ」を瞬時に思い浮んだ。それは3号73の計13はイエス緑りの数字の為で有った。この1行は、誰方にも転送はOKです……。

天保9年に、親神様に入り込まれた中山みき様は、明治2年正月「筆持て〜」の声に筆を持って、自然に手が動き、57577の和歌体で1711首の天のメッセージ「天理教道友社に電話で、お筆先のポケット版を着払いで注文すると送料込み千円未満で届きます」を書いて居られます。

その親神様が、みき様没後5年目に、福地山の無学で自分の名も書け無い出口ナ才様が「三千年一度に拓く梅の花、丑寅の金神の世となりたぞよ。梅で拓いて松で納まる神国の世となりたぞよ」のメッセージを残しました。無学者で乱筆、乱文、お許し下さい。

◎ 芹沢文学読書会(芹沢文学・大分友の会)は25年目の歩み

平成8(1996)年9月に、大分県立図書館の研修室で発会した芹沢文学・大分友の会の「芹沢文学読書会」は、25年目の歩みを重ねています。奇数月の第二日曜日に年6回ですが、この3月11日に第148回の読書会を持ちました。会員が減り、読書会への参加者も少なくなっています。熱心な会員に支えられて継続しています。福岡県の会員が時々参加してくれています。福津市の田中健二さん、小倉の金英哲さんと中津の呉英義さんが遠くから参加しています。芹沢文学研究会の会員で芹沢文学・大分友の会の会員になってくれる方も7人います。次回は、長編小説『一つに世界』サライの末巻を語りたいと思います。大刑連休の間に、この長編小説をお読み下さい。

この7月に芹沢文学読書会も第150回になります。これという記念的なことも出来ませんが、私小串の記念講演会をしたいものと思っています。会員で来れる人のみ集い、芹沢文学を語りたくて願っています。中々新しい入会者が望みませんが、細々とやる限りで継続して行きたいと念願しています。

★未納の方は今年度の年会費納入をお願いします。*同封の払込取扱票にて納入下さい。今年度も年会費を1800円に据置きます。同封の郵便振替にて納入をお願いいたします。寄付も受入れますが、無理をされませんようお願いいたします。尚、どうしても退会されます方は、御面倒でも、ハガキ等にて御一報下さい。

▽新人会員の紹介 平成30年8月以後の入会者は無し。*新入会者を募集中 ♡ ◆ ☆ 編纂後記 ☆…………… 編纂責任 小串信正……………

会報第117(春)号と同封資料をお届けいたします。新型コロナウイルスの中、会員の皆さんはお元氣にお過ごしのことと思います。ワクチンの接種が、日本でも始まっています。ワクチンの接種が進んでいる国では、感染者や重傷者が急減しています。ワクチン接種で、新型コロナウイルスの流行が終息していくことを期待しています。東京五輪の聖火リレーが実行されています。何とか東京五輪(パリンピック)をやり遂げたいものです……。

作家芹沢光治良と芹沢文学に取組んで来ましたが、その評価が余りに低く、若い人々に忘れられつつあることを残念に思います。公立の図書館で、作品を作者別に並べているのですが、これはどこかの指導があるのか、「芹沢光治良」の名札が見られません。「世」の欄には、「瀬戸内寂聴」のみがあり、ときたま「妹尾河童」があるのみ。どうして「芹沢光治良」が無いんだ!! 愛読者と共に研究者・評論家の責任です……。どうぞ、お元氣にお過ごし下さい。